



皿倉山 リニューアル計画

絶景と自然の魅力づくりに着手



平成28年5月
北九州市

目 次

I. 皿倉山の歴史と特色	1
1. 皿倉山の歴史	1
2. 帆柱公園・帆柱自然公園・帆柱森林植物園の経緯	2
3. 官宮八幡製鐵所と皿倉山	3
II. 皿倉山の現状	4
1. 施設や見所	4
2. 利用者数	10
3. 利用者アンケートの結果（観光客）	10
4. ビジターセンターの利用者の推移	12
5. 利用者アンケートの結果（登山客）	12
6. 皿倉山をとりまく課題	14
III. テーマとコンセプト	15
1. テーマ	15
2. コンセプト	16
3. 整備エリア	17
IV. 主な事業の内容	18
山頂付近エリア 事業1. 天空ドームの改修	18
事業2. 展望デッキの設置	18
事業3. 絶景の遊び場の整備	19
帆柱平中央エリア 事業4. 皿倉平中央広場の整備	20
事業5. アスレチックのリニューアル	20
事業6. 皿倉山ならではの体験	21
帆柱森林植物園・回遊エリア 事業7. 帆柱森林植物園の再整備とサクラ・モミジの名所づくり	22
事業8. ウォーキングコースの拡充	24
帆柱公園エリア 事業9. 立体駐車場の設置	25
アクセス対策 事業10. サインの充実	25
V. 参考資料 1～4	26

I. 皿倉山の歴史と特色

1. 皿倉山の歴史

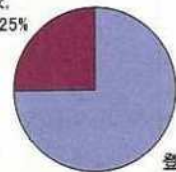
皿倉山について

皿倉山（標高 622m）は、市内の広いエリアから姿を見ることができ、その美しい稜線の姿は、市民の誇りとなっています。八幡西区、八幡東区では、多くの学校で校歌の歌詞に皿倉山や帆柱山の名が使用されるなど市民にとって本市のシンボルとなる山となっています。

皿倉山は、帆柱山や花尾山、権現山とともに“帆柱連山”を構成し、北九州国定公園の一部にもなっています。市街地の近くにも関わらず、その自然はとても豊かで、春や秋には百種以上の渡り鳥を見ることが出来ます。

皿倉山山頂からの景色は、北九州市の市街地を一望できる絶景であり、特に夜景は、“100 億ドルの夜景”と呼ばれ、「新日本三大夜景」のひとつにも選ばれています。

登場しない
学校、
19校、25%



登場する
学校、
56校、75%

校歌に皿倉山等の山名
が登場する学校の割合
(八幡西区、八幡東区)

皿倉山の名前の由来

皿倉山の名前の由来は、神功皇后が発した言葉に由来すると伝えられています。この山に登った神功皇后が下山するときには日が暮れていて「更に暮れたり」と言ったことから、この一帯が更暮山または更暗山と呼ばれ、それが皿倉山に転じたと言われています。



皿倉山周辺位置図

皿倉山の略歴

皿倉山を含む帆柱連山は、“帆柱自然公園”として昭和 29 年から整備が進められ、ケーブルカーの設置、展望台の整備などが行われました。その後、昭和 47 年に“北九州国定公園”に指定されたほか、昭和 58 年からは、市政 20 周年記念事業として“帆柱森林植物園”の整備が進められました。

- ・江戸期 黒田藩が植樹政策を実施。（後の皇后杉林を形成）
- ・江戸中期 「郡内随一の高山なり」と『筑前国続風土記』（貝原益軒 編）に記載
- ・昭和 12 年 皿倉表登山道（市道）が完成
- ・昭和 29 年 “帆柱自然公園”の整備計画が八幡市議会で議決される
- ・昭和 32 年 “帆柱ケーブル”開業
- ・昭和 33 年 山頂に展望台を設置
- ・昭和 38 年 5 市が合併し北九州市が発足
- ・昭和 38 年 帆柱スカイラインリフトが開業
- ・昭和 47 年 “北九州国定公園”指定
- ・昭和 48 年 “帆柱自然公園愛護会”設立
- ・昭和 58 年 “帆柱森林植物園”の整備着手
- ・平成 13 年 ケーブルカーの車両更新が初めて行われる
- ・平成 19 年 帆柱スカイラインリフトに変わり“皿倉山スロープカー”が開業
山頂の展望台を改修
- ・平成 27 年 “帆柱ケーブル”から“皿倉山ケーブルカー”に名称を変更

（資料：八幡市「市勢要覧」（昭和 32 年）、八幡市「八幡市史」（昭和 34 年）、皿倉山ビジターセンターHP）

2. 帆柱公園・帆柱自然公園・帆柱森林植物園の経緯

帆柱公園及び帆柱自然公園の経緯

“帆柱公園”は、日比谷公園（東京都）や大濠公園（福岡市）をはじめ、本市の清滝公園などの設計を行い、六甲山の植樹計画に携わった、日本の「公園の父」といわれる本多静六博士が、大正 9 年に旧 5 市の 1 つである八幡市の依頼を受け設計しました。

また、“帆柱自然公園”は、昭和 29 年に「勤労者並に家族の休養、慰安と青少年の育成、観光」を目的として、整備計画が八幡市の議会で議決されました。この整備計画の一環として、昭和 32 年に開業したのが“帆柱ケーブル（現 皿倉山ケーブルカー）”、昭和 33 年に設置されたのが展望施設を持つ山頂広場です。

その後、帆柱森林植物園の整備や帆柱スカイラインリフトの開業によるアクセス向上などを経て、現在の環境を形成してきました。

昭和 48 年には、“帆柱自然公園愛護会”が設立され、現在に至るまで、公園内の自然環境の保全と保護活動、環境学習活動、各種イベントの開催などを行っています。

（資料：八幡市「市勢要覧」（昭和 32 年）、皿倉山ビジターセンターHP）



皿倉山ケーブルカー



帆柱自然公園



帆柱森林植物園の経緯

帆柱森林植物園の設置に向けた動きは、市民からの「家族づれで楽しめる大型公園を」との要望を受け、“北九州市新・新中期計画（計画期間：昭和 55～59 年）の中に、皿倉山周辺への公園設置の計画を掲げたことから始まりました。

昭和 57 年には、学識経験者及び関係団体が構成する「帆柱山森林植物園委員会」により基本計画が策定され、この中で対象地域や整備方針、整備内容、管理運営方法などが定められました。

その翌年、昭和 58 年に市政 20 周年記念事業として整備に着手し、段階的に現在の帆柱森林植物園を形成してきました。

（資料：北九州市「北九州市帆柱山森林植物園基本計画」（昭和 57 年）皿倉山ビジターセンターHP）



帆柱森林植物園



フユザクラ

3. 官営八幡製鐵所と皿倉山

北九州市を一望できる皿倉山

皿倉山山頂は、明治以降の日本の近代化と 100 万都市を支えた、北九州市の市街地をパノラマで見渡すことが出来る絶好のビューポイントです。

平成 27 年に「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、北九州市内では、官営八幡製鐵所関連の 3 施設が構成資産となっています。このため、世界遺産の街を一望できる皿倉山の観光需要は、今後増加していくことが見込まれており、ハード・ソフト両面の受け入れ体制の整備が求められています。

また、帆柱森林植物園からは、皿倉山の南側に位置し、八幡製鐵所の工業用水池として建設された河内貯水池を眼下に望むことができます。豊かな緑に囲まれた河内貯水池は、皿倉山北側の工業地帯とは対照的な自然景観を形成しています。

（資料：一般財団法人産業遺産国民会議 HP）



市街地の眺め



官営八幡製鐵所旧本事務所



河内貯水池の風景



河内貯水池の堰堤

Ⅱ.血倉山の現状

1. 施設や見所

血倉山には移動手段のケーブルカーや眺望を楽しむ展望台、宿泊できるキャンプ場、自然を満喫できる森林植物園など様々な施設があります。特にケーブルカーや展望台は人気があり、家族やグループでの来訪者が多くみられます。

< 施設位置図 >



■ ケーブルカーとスロープカー

ケーブルカーは自然と夜景が楽しめる皿倉山山頂への交通手段として昭和32年に開業し、山麓駅から山上駅まで全長 1,100m標高差 440mの九州最長のケーブルカーとして、現在でも年間約20万人が利用しています。

平成13年にスイス製の車両に更新され、全面ガラス張りの車窓からは刻々と変わる見事な景観を楽しむことができます。

昭和39年に山上駅から皿倉山頂までを繋ぐスカイラインリフト(チェアリフト)が開業され、平成18年までの42年間、利用者を運んできました。

平成19年にスロープカー(40人乗り)として生まれ変わり、ケーブルカーの車両と同じく、こちらも全面ガラス張りであり、更なるパノラマ景観を楽しめます。



以前の車両



現在の車両



スカイラインリフト



スロープカー



JR八幡駅まで無料シャトルバス(土日、祝日のみ)が運行していて、公共機関でのアクセスも可能です。

更なる利用者の拡大を図るため、PR や案内など幅広い広報活動や、分かりやすいアクセスの向上が望まれます。また、大型連休や紅葉などの観光シーズンは多くの利用者が来ることで駐車台数が不足しており、駐車場の整備が必要となっています。

- 昭和32年：ケーブルカー営業開始
- 昭和39年：スカイラインリフト開業
- 平成13年：ケーブルカーの車両更新
- 平成19年：スロープカー開業
- 平成26年度利用者数：約20万人

■ 展望台

山頂の展望台からの眺望は北九州市の八幡西区から門司区、下関市まで見渡すことができ、夜景は“100億ドルの夜景”と呼ばれ、「日本新三大夜景」のひとつにも選定されています。展望台のレストランはガラス張りとなっているため、絶景を眺めながら食事を楽しむことができます。

また、現在の山頂広場においては、眺望を楽しみながら休憩する場所がないため、絶景を活かした休憩のできる施設の整備が望まれます。

- 平成15年：日本新三大夜景に認定
- 平成19年：展望台の改修



皿倉山展望台



展望台レストラン



展望台広場



展望台からの夜景

■ 天空ドーム

展望台から東へ 150mの場所にある「天空ドーム」という見晴らし台には平成 27 年 4 月に、「恋人の聖地サテライト」に認定された「皿倉山山頂／皿倉山の夜景」の銘板とモニュメントがあり、恋人たちに人気のスポットとなっています。中央のモニュメントは御影石の上にステンレス製のハートが載ったデザインで、ハートの向こうには、「愛」をかけて「藍の島」が眺望できます。周辺の柵には、ハート型のオブジェがあり、南京錠をロックすると恋愛成就できる?! とされています。

土日・祝日の夜は天空ドームがライトアップされ、さらにロマンチックになります。

一方で、建物はデザインが古く老朽化が目立っており、「恋人の聖地」に相応しい、雰囲気作りや設備の改修が求められています。



天空ドーム



ライトアップ



モニュメント

■恋人の聖地サテライト認定：平成 27 年 4 月

■ ビジターセンター

平成 18 年 3 月に国民宿舎が閉鎖後、「皿倉山ビジターセンター」として開設しました。登山者の拠り所や帆柱自然公園の情報の発信場所として利用されています。

建物は開設から約 50 年が経過しており施設の老朽化への対応が必要です。また、皿倉山ならではの自然体験や催し等の充実が望まれます。



ビジターセンター

■供用開始：平成 18 年 4 月

北側広場



北側広場



クライミング遊具



野外音楽堂

ビジターセンター内部



木工室



厨房
P6

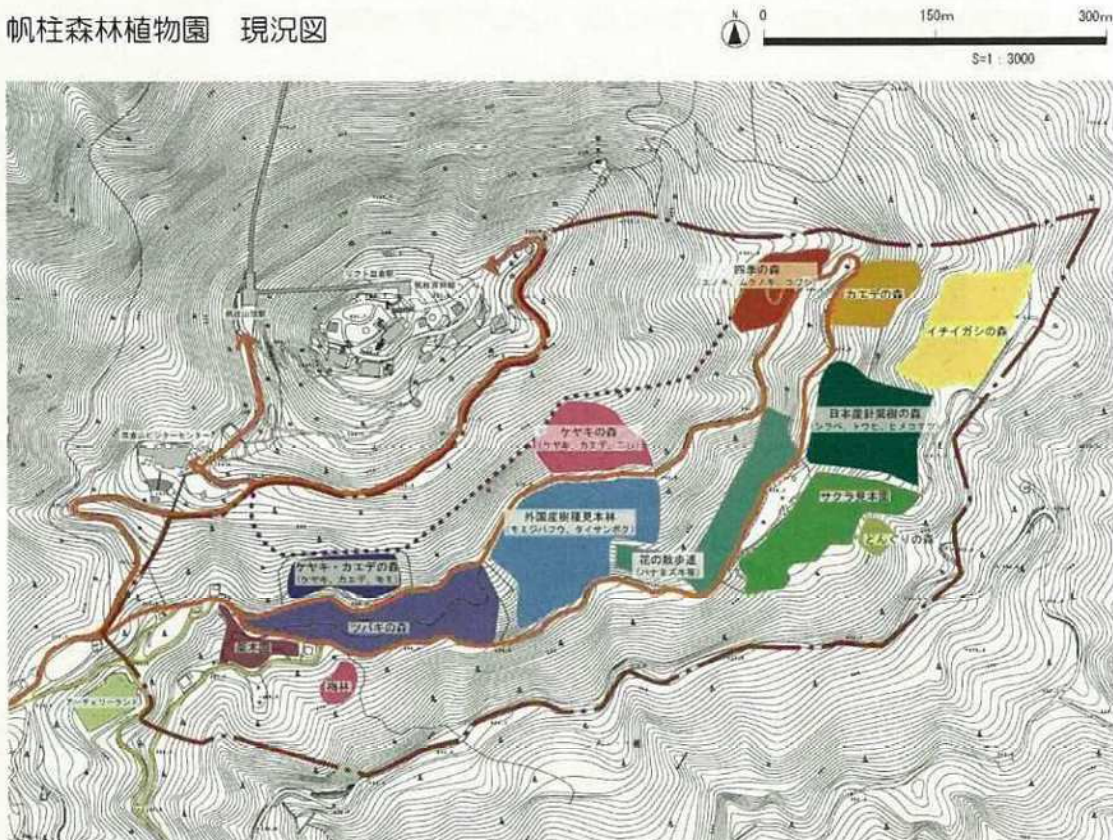


講習室

■ 帆柱森林植物園

昭和61年に北九州市の木「イチイガシ」の苗木を植栽。「サクラ広場」「クヌギの森」「カエデの森」「ケヤキの森」「ツバキの森」「四季の森」などテーマ性のある植樹しています。また、隣接して公益財団 八幡薬剤師協会が運営する「薬用植物園」が存在します。

帆柱森林植物園 現況図



年間に2度咲く「フユザクラ」は、人気箇所のひとつであり、開花期は多くの方が訪れます。森林植物園は春の新緑とともにいろんな種類の開花を楽しめ、周辺の木々には小鳥や昆虫が飛び交っています。

植栽から30年が過ぎ、植樹した樹木と自然に発芽した樹木などが成長したことで込みすげていることや、休憩施設などの老朽化などで全体的に暗い印象もあります。また、薬用植物園との連携して、案内標識などを充実し、回遊性を高める取り組みが望まれています。

■ 植栽開始：昭和61年



帆柱森林植物園入口



サクラ広場



薬用植物園

■ 皇后杉

皿倉平から西に 450m、権現山の外周遠路沿いに皇后杉林があります。黒田藩の領地になった頃(1600)から植林を進めたことから、樹齢は250年前後の立派な大樹が多く見られます。その中でも、「皇后杉」に至っては、約400年と推定されており神聖な雰囲気漂います。

位置的な問題もあり皇后杉の存在も知られていないため、PR等の広報活動や、雰囲気を活かしたパワースポットとして整備や話題作りが必要です。

■皇后杉樹齢：推定 400 年



皇后杉近くの広場



皇后杉の森 休憩場所



皇后杉

■ キャンプ場

権現山内に青少年キャンプ場が存在し、年間 3000 人程度が利用しています。帆柱自然公園の素晴らしい環境の中で、次代を担う青少年が野外活動を通じて、心身ともたくましく鍛え、明るく想像力豊かな人間性の育成を目指すための社会教育施設です。

開設から年月が経過し、施設の老朽化が目立ち、利用者のニーズに合った魅力づくりが望まれています。

- 施設：テントサイト 29 区画（夏休み期間はテント常設）、炊事場、営火場、水道、水洗トイレ、管理棟有り



キャンプ場入口



営火場

■ アーチェリー場

皿倉平の皿倉林道の入口から 140m 下った場所にボランティアで運営をしている「北九州フィールドアーチェリーランド」が存在します。土・日曜、祝祭日に営業しており、初心者でもインストラクターが教えてくれ、道具のレンタルもあるので気軽に利用することができます。

また、フィールドアーチェリー(自然の中で競技)ができる射場はあまりないため人気となっており、大会なども行われています。

■料金：一般利用者

＜練習場＞	700 円（3 時間） 1900 円（3 時間以上）
＜フィールド＞	1200 円（1 コース） 2400 円（ユニット）
＜レンタル＞	500 円（弓具）



アーチェリー場入口



練習場



フィールド